

（感想）

実習開始の8月23日から最終日の9月3日までとても短く感じました。毎日、とても濃密な時間をすごすことができました。

公文書館に必要な法制度から古文書の解読、修復から講座、展示や検索業務、レファレンスや公文書の評価選別までさまざまな業務を学びました。実際に使用される文書にふれることができるので、つねに緊張感があり、1日1日があっという間に過ぎてしまいました。

和紙の繊維を水圧を利用して虫食い跡部分のみに流し込むリーフキャスト（修復）では、ノリなど媒介物を一切利用していないのに、繊維が紙になることを実践を交えて教えていただきました。また、評価選別では、実際に現課で使われて文書を1点ずつ確認しながら保存か廃棄を決めるという責任の重い実務を体験しました。

たとえ紙片でも遠い過去の情報を記憶している古文書も、作られてからの時間は短いけれど確実に未来につなげるべき情報を含んだ公文書も、どちらも時を超える記録です。貴重な記録のあつかいかたを、短い時間ではありますが、しっかりと教えていただきました。

公文書館は一般的とは言えないかもしれませんが、地域の歴史や鉄道の変遷、行政のなりたちなど、身近な話題の源流をたどることができる場所だと思います。利用者の方と資料をどうつないでいくか、これからも考えていきたいと思います。

最後に、指導員となってくださった職員のみなさまが、業務ごとに詳細な資料をつくってください、半日ときには丸一日つきそってくださいました。また、質問にもいつも丁寧にお答えいただき、感謝しております。薄井さんをはじめ職員のみなさま、本当にありがとうございました。

（感想）

10日間という長い期間に、多くの職員の方々に指導していただき、ありがとうございました。

アーカイブズについては知識不足でしたので、学ぶことがとても多かったです。公文書館の意義や役割についてはもちろん、文書の修復や保存、レファレンス業務、評価選別など実際に業務を体験することで知識だけではなく、経験として身に着けることができたと思います。修復作業では、実際の古文書を用いて行ったので、緊張感をもって取り組むことができました。また、業務だけではなくアーカイブズ講座にも参加させていただき、地域の方々との交流も経験できました。どのようにしたら多くの方に利用していただけるか、公文書館だけでなく博物館等での取り組みについてしっかり考えることができました。

公文書はただの役所で作られている文書ではなく、自分たちの暮らしやその地域の歴史などに密接に関わってくるものだと思います。身近なことについて公文書から知ることができる部分は多いと思うので、多くの人にもっと関心をもってもらいたいと強く感じました。多くの人に知ってもらうにはどうすればよいか、改めて考えていきたいと思います。

お忙しい中、実習を受け入れ丁寧に指導していただき本当にありがとうございました。とても充実した日々でした。実際に体験したことで、苦勞ややりがいを感じることもできました。これからの学習に活かしていきたいと思います。